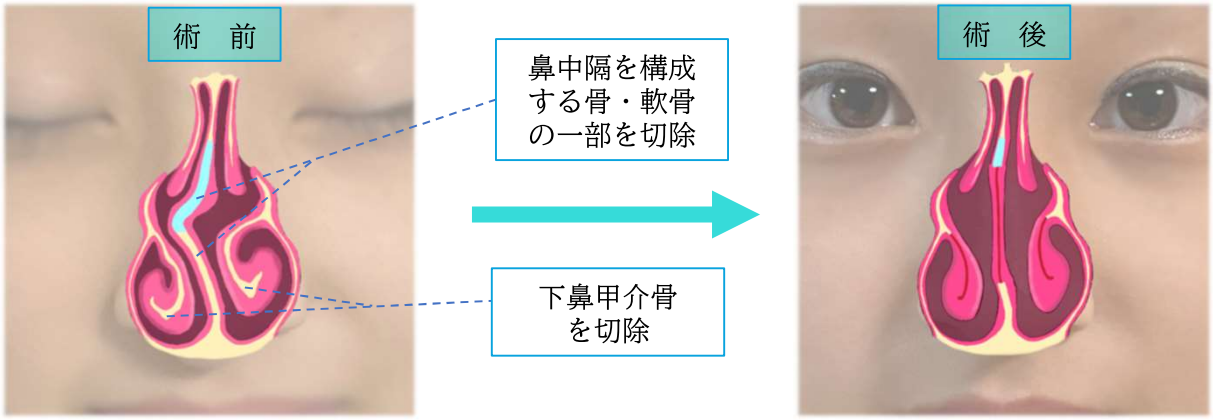
鼻づまり・鼻水・くしゃみ　の手術療法
（鼻中隔弯曲症・肥厚性鼻炎・アレルギー性鼻炎 の手術）

鼻中隔矯正術（内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型）

鼻中隔弯曲症に対して行います。鼻中隔は左右の鼻の穴を隔てている壁ですが、鼻中隔を構成する骨・軟骨が成長過程で強く曲がることにより鼻づまりの原因となることがあります。
他に外傷が原因となることもあります。鼻中隔矯正術は、曲がっている鼻中隔の骨・軟骨を切除して鼻中隔の形態を矯正することにより鼻づまりを改善させる手術です。

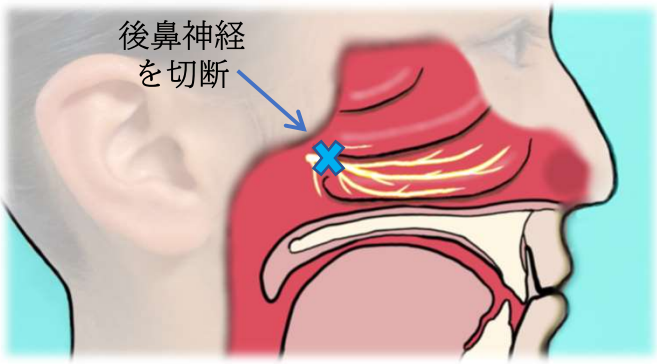
粘膜下下鼻甲介骨切除術（内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型）

鼻腔には下鼻甲介という粘膜で覆われたヒダがあります。アレルギー性鼻炎などの炎症により下鼻甲介が腫れて鼻づまりの原因となることがあります(肥厚性鼻炎）。粘膜下下鼻甲介骨切除術は、粘膜へのダメージを最小限に下鼻甲介の中にある骨を切除することで、下鼻甲介の容積を減量し鼻づまりを改善させる手術です。



後鼻神経切断術（経鼻腔的翼突管神経切除術）

薬物治療によっても改善しない重症アレルギー性鼻炎に対して行います。後鼻神経はくしゃみに関係する知覚神経と鼻水の分泌に関係する副交感神経を含みます。後鼻神経切断術は、鼻の奥の蝶口蓋孔という骨の穴から鼻腔に入ってきた後鼻神経をその付近で切断することにより、鼻水・くしゃみ症状を軽減させる手術です。



鼻づまり・鼻水・くしゃみの手術療法は、患者様の病状やニーズに応じて上記の手術を組み合わせて行います。手術は鼻の穴から内視鏡を使用して低侵襲に行い、顔にキズや腫れを残しません。安全・確実な手術と術後管理のために,全身麻酔での手術と通常１～２泊の入院で治療を行っています。

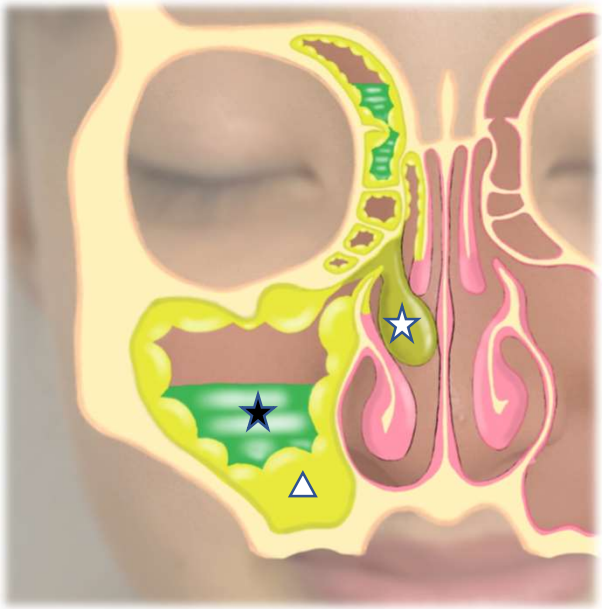
医療法人社団翔和仁誠会　東京みみ・はな・のど サージクリニック
予約専用ダイヤル　0120-34-3387

慢性副鼻腔炎の手術療法

内視鏡下 鼻･副鼻腔手術

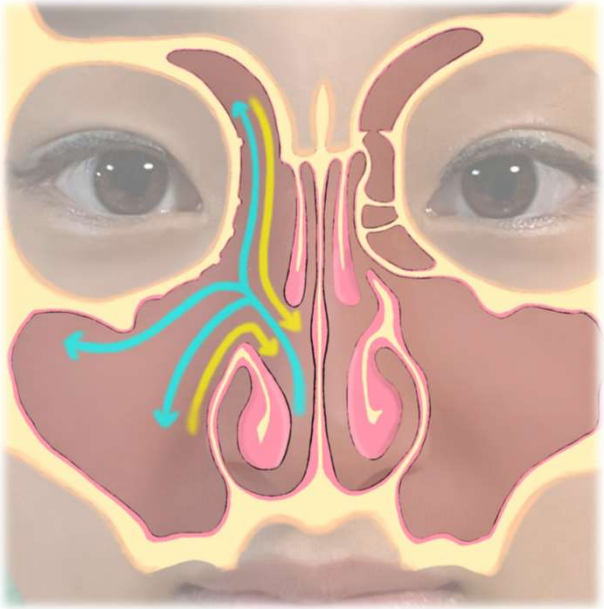
慢性副鼻腔炎は、後鼻漏(鼻水がノドに垂れる)、鼻閉(鼻づまり)、嗅覚障害(においがわかりにくい)、頭痛・顔面痛(頭、額、頬、目の奥の痛み)などの症状の原因となります。
慢性副鼻腔炎には、細菌などの感染が原因となるもの、真菌(カビ)に関連したもの、喘息に関連したものなどがあります。
薬物治療や処置などの保存的治療に抵抗する場合や、鼻茸など高度な病変がある場合は手術療法が行われます。
内視鏡下鼻･副鼻腔手術は、鼻の穴から内視鏡を使用して、正常組織を温存しながら鼻内・副鼻腔内の病変を取り除き、換気排泄路(空気や鼻水の通り道)をしっかりと作り直す手術です。
鼻の中の状態によっては、鼻中隔矯正術や粘膜下下鼻甲介骨切除術などを同時に行い、鼻の中の形態を症状の改善、手術の実施や術後処置に有利な状態にします。
術後に副鼻腔の粘膜が正常化するには順調に経過しても約２～３ヶ月を要するため、術後の治療が手術と同じくらい大切です。
術後は、外来処置、薬物治療や御自身での鼻洗浄を行います。
慢性副鼻腔炎の種類によっては再発しやすいものがあり、半永久的な術後治療やフォローアップが必要なケースがあります。

術　前



鼻茸☆、粘膜腫脹△、膿貯留★

術　後



病変・隔壁を除去し換気排泄路⇄を構築

慢性副鼻腔炎の手術療法は、安全・確実な手術と術後管理のために,全身麻酔での手術と通常１～２泊の入院で治療を行っています。

医療法人社団翔和仁誠会　東京みみ・はな・のど サージクリニック
予約専用ダイヤル　0120-34-3387

術前～手術～術後の流れ

東京みみ・はな・のど サージクリニック初診
（電話での御予約　または　かかりつけ医からの紹介を
おすすめいたします）

・診察　・ＣＴ検査　・手術説明　・手術日程調整
・術前検査（血液検査・心電図・胸部Ｘ線検査 等）　など

↓

再診

・術前検査結果確認（必要があれば内科医等へ紹介）
・入院説明

↓

再診（入院前）

・新型コロナウイルスＰＣＲ検査

↓

入院＋当日手術
月～土曜日の入院（祝祭日は除く）

・可能な限り個室または少人数部屋利用
・術後は当日より歩行・食事可能
・通常１～２泊入院

↓

退院後

東京みみ・はな・のど サージクリニック または
紹介元のクリニックで診察・術後処置・薬物治療

医療法人社団翔和仁誠会　東京みみ・はな・のど サージクリニック
予約専用ダイヤル　0120-34-3387